

九州南朝と久留米

～九州南朝盛衰のカギであった久留米～



南北朝争乱の時代、劣勢であった南朝。ただ九州のみが菊池一族の支えを受け、懐良親王が11年間も支配します。久留米はその興亡の鍵となる場所でした。

後醍醐天皇が1334年(建武1) 貴族主体の政治を開始したものの、足利尊氏は反乱を起こし、1336年(建武3・延元1) 光明天皇を樹立して北朝を開きます。一方後醍醐天皇は吉野で南朝を開き、57年間も2つの朝廷が争う南北朝時代が始まりました。

九州では後醍醐天皇が派遣した征西将軍宮懐良親王とそれを支える菊池一族が15年もの歳月をかけて九州最大の武力を持つ少弐氏を退け、大宰府を制圧。以後11年間、南朝は九州を支配しました。久留米は大宰府に対する最前線基地であり、多数の遺跡・伝説が残っています。

筑後国府 (御井町?)

1349年(正平4・貞和5) 9月、懐良親王は菊池武光と共に筑後へ進攻。10月25日頃には筑後国府へ陣を進めましたが、この時はそれ以上の動きはありませんでした。

高良山征西府 (御井町)

1353年(正平8・文和2) 懐良親王・菊池武光は埴井原の戦いで九州探題一色道猷に勝利し、少弐頼尚を味方とします。この機会に懐良親王は征西府を菊池から高良山へ進めて一色氏を追撃。2年後、一色氏は九州から逃亡しました。



「史蹟社渡之跡」碑 (宮ノ陣町)

大保原 (大原) の合戦 (宮ノ陣町～小郡市)

1359年(正平14・延文4) 少弐頼尚が挙兵。

筑後川の杜(もり)の渡しまで兵を進めて高良山に迫り、8月6日大保原で大きな合戦となりました。

少弐方は一族23人が討死。宮方も懐良親王が矢傷を負うなど、両者共に被害は大きいものでした。一説には重傷の親王は谷山城に運ばれ、亡くなったとも伝えられています。



三谷有信画「筑後川合戦図」(久留米市教育委員会蔵)

毘沙門岳城（別所城、御井町）

高良山の山頂、久留米森林つつじ公園にあり、懐良親王が滞在したと伝わる城です。空堀などが良く残っています。



毘沙門岳城の空堀

高良大社奥の院（御井町）

毘沙門岳城の直下にある高良大社奥の院は、大保原の戦いに出陣する懐良親王が戦勝を祈願したとされ、境内には「勝ち水」と呼ばれる湧き水があります。

五万騎塚（宮ノ陣町）・太郎原一本杉跡（山川町）

共に大保原合戦の戦死者を埋葬した塚の跡と伝わります。



五万騎塚碑

遍万寺・宮ノ陣神社・将軍梅（宮ノ陣町）

遍万寺は懐良親王が陣中に植えた梅の傍らに、戦死者供養のため菊池武光の弟武邦が開いた堂を起源とする寺院です。

また将軍梅の傍らに1888年（明治21）良成親王・懐良親王を祀る神社が創建されています。

千光寺梵鐘・懐良親王御陵墓（山本町）

千光寺には、懐良親王の御陵墓と供養塔、親王を守り討死した7名の公卿の墓があります。

南朝の最盛期を経て再び高良山へ

2年後の1361（正平16年・延文6年）8月、征西府は高良山の陣を出て大宰府に入り、以後11年間南朝方が九州を支配しました。



三谷有信画「文中三年菊池氏高良山籠城」（久留米市教育委員会蔵）

北朝は九州探題今川貞世（了俊）を派遣。1372年（応安5・文中1）8月、今川の大宰府攻撃に敗

れた征西府は高良山へ戻ります。なお、菊池武光はこの頃高良山で亡くなったとされています。

八丁島陣（宮ノ陣町）と菊池氏の撤退

1374年（応安7・文中3）8月頃、今川了俊は八丁島まで進み、高良山に迫りました。

9月17日 菊池氏は遂に高良山から退去し、肥後国へ撤退しました。11月になると了俊は筑後川を渡って耳納連山や八女郡の南朝方の城を次々と陥落させ、菊池へ迫っています。

高良山下宮社（御井町）

1377年（永和3・天授3）2月9日 懐良親王は高良山下宮社へ筑前国富永荘の地頭職を寄進し、衰退する南朝の勢力回復と九州の平定を祈願しました。同じ年に千光寺には北朝年号「永和三年」銘の梵鐘が寄進されており、九州南朝の衰退を物語っています。